

この本は、その表題の通り、『意識の流れ』という本の続編です。

私は、これまで三十年余りの間、主として日本各地で、セミナーを開催させていたできてきました。

そのセミナーを通して、お伝えしたかったことは、

「人間の本当の姿は意識、波動、エネルギーです。」

「人間の本当の姿は目に見えません。」

「目に見える世界を本物とする思いから、目に見えない世界を本物とする思いへ、あなたの意識の世界を転回していきましょう。」

ということです。

「私達の時間は永遠です。生まれてから死ぬまでが、私達の時間ではありません。私達の時間は、死んで途切れることなく、ずっと続いています。その時間の中で、今、ひとつの肉体を持っているだけです。」

ということを、心で知っていただきたいと思いながら、私は、セミナーを続けてまいりました。

そして、その趣旨^{しゆい}の集大成として、『意識の流れ』という本を二〇〇四年十二月に、その改訂版を二〇〇五年十二月に、さらに、筆を加え二〇一〇年五月に増補改訂版を出版させていただきました。

もう少し詳しい学びの趣旨および経緯は、その本で押さえておいていただければ幸いです。私は、この先、そうしていただいていることを前提にして、話を進めていきたいと思っています。

また、他にも参考となる図書を巻末に紹介していますので、併^{あわ}せて目を通していただければ、さらにご理解が深まるのではないかと思います。

ところで、書店には、大ベストセラーとなるものをはじめとして、たくさん^すの書物が並んでいます。

しかし、その中に、真実とは何か、本当のこととは一体何なのか、そのことを真^まっ直^すぐに伝えているものがあるでしょうか。

参考になるものはあるかもしれません。

中には、元気づけられ、そして、勇気づけられる内容のものがあるかもしれ

れません。

人間の心の奥深くを鋭く突いて、読者に何か訴えるものがあって、それなりの作品に仕上がっているものもあるかもしれません。

確かに、その時は、感動もしたし、共鳴もしたでしょう。しかし、時間が経てば、あの感動は何だったのか……。確かに、相通じるところがあって共鳴もしたけれども……。ということはないでしょうか。

感動や共鳴が長続きしないのはなぜでしょうか。

それは、それらの作品が、人間の本質に届く決定的なものを欠いているからです。

では、人間の本質とはいったい何なのでしょうか。

私は、人間の本質は、心だと、伝えてきました。

それらの書物には、表面上、問題提起があつて、何かを促すようなテーマがあつたとしても、もう一步踏み込んで、

人間とは何か、

人間の本当の幸せや本当の喜びとは何か、

なぜ、人間には苦悩があるのか、

そして、幸せや喜びと苦悩には何らかの関係があるのだろうか、

といったことについて、本質を鋭く突くというところまでには至っていないと思います。

たとえば、人間の心の中を上手に描写した内容であつても、人間の本質は、心だという私の言わんとするところと、最終的には合致しないのです。

それは、どの書物も、人間を形としてとらえ、その土台の上に立って、人間像を描いているからです。

その土台の上で、人間の様々な心を、色々な角度からとらえたり、色々な味付けをしたりして、文章構成がなされているに過ぎません。

確かに、人間を形としてとらえるという土台の上で読めば、感動もするし、共鳴もする内容になっていると思います。人間の心の機微が、憎らしいほど上手く表現されていて、いい作品だと高い評価が得られる場合もあるでしょう。